

日本RNA学会会報

No.15 (2007年1月)

目次

巻頭言：RNAiとアンチセンスRNA	1
日本RNA学会 第4期役員 役員会議事録	3
日本RNA学会 第8回総会報告	4
2005年度日本RNA学会収支決算報告書	5
2006年度収支予算	8
第9回RNAミーティング(日本RNA学会年会)の 準備状況について	9

日本RNA学会
(THE RNA SOCIETY OF JAPAN)
wwwsoc.nii.ac.jp/rnaj/

巻頭言

RNAi とアンチセンスRNA

名古屋大学大学院理学研究科 饗場 弘二

昨年、RNA interference (RNAi) の発見により C. Mello と A. Fire がノーベル生理学賞を受賞したことは昨今の RNA 研究の隆盛を象徴する出来事であった。かれらの業績について内外でいくつかの解説がなされているが、その中で、P. D. Zamore が RNAi の発見が現代生物学にもたらした影響について議論していることが印象に残った (*Cell* 127, 1083-1086)。彼は、第1に2重鎖 RNA が配列特異的に遺伝子発現抑制を導くという RNAi の発見は、遺伝子発現および DNA の染色体への組織化についてのこれまでの認識を大きく変え、その影響は、DNA 構造の発見にも対比するほどだと述べている。第2に、RNAi は、新しい強力なテクノロジー故に遺伝学の研究に革命をもたらしており、その影響は PCR の発明に匹敵すると述べている。第3に、RNAi は、現代医学を大きく変える可能性を示しており、その影響は、CAT スキャンや MRI の発見にも匹敵するかもしれないと論じている。RNAi の医学的応用については、今後の研究の展開を待つ必要があるとはいえ、Zamore の議論は、RNAi の発見のグローバルな意義を的確に指摘している点で大いに共感できる。

一方、Zamore のエッセイを含むほとんどの解説において、RNAi のメカニズムとアンチセンス RNA による遺伝子抑制のメカニズムが異なるとの主張が見受けられることに私はいささか違和感を覚えている。確かに、1998 年の Mello と Fire の原論文 (*Nature* 391, 806-811) で、2重鎖 RNA のみが効果的なサイレンシングを示すことや「触媒的」に作用すること (実は RNA の増幅) から、彼らが、いわゆるアンチセンス機構とは異なる機構の存在を予想したことは事実である。しかし、その後の研究の展開自体が、2重鎖 RNA から RNA サイレncing に至る過程の複雑さと巧妙さを明らかにするとともに、RNAi が、究極的にはアンチセンス small RNA と標的 mRNA の相補的相互作用に立脚していることを明らかにしたことも紛れもない事実である。2重鎖 RNA の役割は、siRNA あるいは miRNA の生成とタンパク質との複合体 (RISC) 形成を通して、アンチセンス RNA としての small RNA が効率的に標的 mRNA に作用できることを保証

日本RNA学会 第4期役員 役員会議事録

日時： 2006年7月18日(火) 午前11時50分～午後12時50分

場所： 淡路夢舞台国際会議場「討議室405」

出席者

評議員：饗場弘二、井上邦夫、井上 丹、内海利男、大野睦人、坂本 博、
塩見春彦、塩見美喜子、志村令郎、谷 時雄、中村義一(会長)、
松藤千弥、吉久 徹、渡辺公綱

役員：井川善也、稲田利文、鈴木 勉

欠席者：阿形清和、河合剛太、武藤 昱

1. 中村会長が開会挨拶を行った。
2. 鈴木庶務幹事より、会員数の推移報告、学会事務センターの破産事件に関する報告、その他の活動報告が行われた。
3. 稲田会計幹事より、2005年度の会計収支決算報告が行われた。すでに会計監査により適正な予算執行と認められたことが確認され、承認された。続いて2006年度の会計収支予算案が提出され、承認された。
4. 塩見集会幹事より、第8回年会の準備・開催状況について報告がなされた。
5. 第8回総会の議長として内藤哲氏、副議長として牛田千里氏を推薦することとなった。
6. 第9回年会世話人の饗場弘二評議員から、第9回年会は2007年7月28日(土)から31日(火)に名古屋国際会議場で開催予定であることが説明された。また、第10回年会は内藤哲氏に世話人を依頼し、札幌で開催することとなった。
7. 谷評議員より、年会でのプレゼンテーションに対する賞を設けてはどうか、という意見が出され、口頭発表及びポスター発表の中からベストプレゼンテーション賞を選出することになった。

(庶務幹事：鈴木 勉)

していることにある。この際、アンチセンスRNAの役割はサイレンシング(mRNA分解や翻訳の抑制)を引き起こすタンパク質群を標的mRNAにリクルートすることと考えられている。ひるがえって、small RNAによるRNAサイレンシングは、1984年に大腸菌においてはじめて発見され、この発見がアンチセンスRNAによる遺伝子抑制機構という分野を切り開いた。その後、線虫におけるsmall RNA(miRNA)の発見などへと繋がるが、長い間、small RNAによる遺伝子発現の制御は極めて例外的な現象と考えられてきた。同時に、これらアンチセンスsmall RNAの作用機構については、RNA以外のプレーヤーの存在を含め、研究の大きな進展はなかった。その後の研究により、アンチセンスsmall RNAによるRNAサイレンシングは、普遍的な遺伝子発現制御機構であること、アンチセンスRNAは、単独ではなく、タンパク質と共同して標的mRNAに作用することなどが明らかになってきた。RNAiの発見が、small RNAによる遺伝子発現調節の研究を劇的に加速し、アンチセンスRNAによる遺伝子抑制機構の普遍性と多様性を明らかにする大きな契機になったことは間違いない。私は、大腸菌のsmall RNAの作用機構とmiRNAやsiRNAの作用機構との共通性と相違性を考えることを今年の課題にしたいと思っている。

RNAを主題とする国際会議がフランス(Jacques Monod Conference、5月)、アメリカ(Cold Spring Harbor Symposium、6月)、そして日本(RNA 2006 Izu、12月)と立て続けに開催されたことも昨年の特徴であった。たまたまこれら3つの会に参加する機会を得たが、RNA 2006 Izuの学術的水準が他の2つの会に匹敵すると実感できたことを日本RNA学会の一員として、大変うれしくまた誇りに思っている。この会の実現と成功は、日本RNA学会会長でもある中村義一教授の卓越した指導力と努力によるところが大きい。日本のRNA研究を支える多くの方々の存在と優れた実績がその背景にあったことはいままでのない。近い将来、またひと味異なる、しかし高い水準の国際会議が日本でも開催できるように日本RNA学会関係者、特に若い世代の方々の一層の活躍を期待したい。

日本RNA学会 第8回総会報告

日時： 2006年7月18日(火) 午後17時30分～午後18時30分

場所： 淡路夢舞台国際会議場

1. 中村会長が開会挨拶を行った。
2. 総会議長に内藤哲氏、副議長に牛田千里氏を選出した。
3. 委任状を含む参加者数の確認を行い、内藤議長より総会成立に必要な100名を越えていることが報告された。
4. 鈴木庶務幹事より、以下の報告が行われた。
 - ・ 第4期役員を紹介。任期は平成18年4月から平成20年3月。
 - ・ 2006年7月13日現在、正会員659名(一般会員396名、学生会員263名)、寄贈・賛助会員14社、名誉会員1名である。昨年度から84名の増員。
 - ・ 学会事務センターの破産事件に関する経緯について報告がなされた。滋賀県立大の倉茂好匡先生による破産の経緯についての報告文が「公益法人」5月号に出版された。希望者は配布可能。
 - ・ 第9回年会(2007年度)は名古屋で、第10回年会(2008年度)を札幌で開催予定である。
 - ・ 学会の顧問弁護士として佐藤博史弁護士(新東京法律会計事務所)と契約を締結した。依頼業務は、法律問題に関する事前相談、学会の公開文書に関する法務チェック、訴訟対応等。契約期間は5月1日～10月31日で、月額52,500円(税込み)。
 - ・ 学生会員から一般会員への身分変更の依頼があった。
 - ・ 今年度より会費の自動引き落としが可能になった。希望者は所定の用紙に記入・捺印の上、事務局(クバプロ・青木様あて)まで送付のこと。
5. 稲田会計幹事より、2005年度の会計収支決算書が提出・説明され、異議なく承認された。
6. 稲田会計幹事より、2006年度の会計収支予算案が提出・説明され、異議なく承認された。会費未納の会員は速やかに納入してほしい旨、依頼があった。
7. 塩見集会幹事より、第8回年会の開催状況について報告がなされた。また、優れた発表の中から、ベストプレゼンテーション賞を選定するとの報告があった。
8. 第9回年会世話人の饗場弘二評議員から、第9回年会は2007年7月28日(土)から31日(火)に名古屋国際会議場で開催予定であることが説明された。
9. 内藤議長により、閉会の挨拶があり、総会が終了した。

(庶務幹事：鈴木 勉)

2005年度日本RNA学会 収支決算報告

2005年度(2005年4月1日～2006年3月31日)の学会会計収支決算は以下のようになりましたのでご報告いたします。

(2005年度会計幹事：河合剛太)

収入の部			
科目	予算額	決算額	備考
学会費	1,659,559	1,789,500	一般会員 1,481,500
賛助会費	330,000	420,000	学生会員 222,000
			海外会員 20,000
			入会金 66,000
雑収入		61,166	和解金、年会要旨集
預金利子	100	27	
収入小計	1,989,659	2,270,693	
前年繰越金	1,752,724	1,752,724	
合計	3,742,383	4,023,417	
支出の部			
科目	予算額	決算額	備考
事業費	850,000	720,270	
年報発行	150,000	113,820	No.12、13
年会補助金	700,000	451,500	
ホームページ関係	0	0	
その他	0	154,950	評議員選挙・交通費(年会)
評議員費	160,000	27,000	
旅費・会議費	150,000	27,000	
その他	10,000	0	
業務委託費	500,000	525,000	クバプロ
一般事務費	280,000	258,388	
印刷費	40,000	17,930	印刷・コピー代等
通信費	180,000	145,700	会報・請求書・委任状発送費
庶務事務費	30,000	2,000	被害学会連絡協議会
雑費	30,000	92,758	払込手数料・クバプロ旅費
予備費	100,000	0	
支出小計	1,890,000	1,530,658	
次年度繰越金	1,852,383	2,492,759	
合計	3,742,383	4,023,417	

監査報告書

【2004年度に発生した損金の一部回収について】

(2005年度会計幹事：河合剛太)

すでに総会でご説明いたしましたように、学会事務センターの破産に関する和解金が支払われましたのでご報告いたします。

記

学会事務センター破産による損金(2004年度)	968,915円
和解金(2005年6月)	57,166円
損金残額	911,749円

以上

監査報告書

日本RNA学会
会長 渡辺公綱 殿

平成18年5月11日

会計監査委員 太田成男

正木春彦



2005年度日本RNA学会会計報告書について関係書類とともにその内容を慎重に監査した結果、正当であることを認めます。

2006年度収支予算

2006年度(2006年4月1日～2007年3月31日)の学会会計収支予算は以下の通りです。
(2006年度会計幹事：稲田利文)

収入の部			
科目	2005年度	2006年度	備考
学会費	1,659,559	1,820,250	一般会員会費 1,534,250 (5,000円×361名×0.85)
賛助会費	330,000	420,000	学生会員会費 286,000 (2,000円×220名×0.65)
預金利子	100	100	
収入小計	1,989,659	2,240,350	
前年繰越金	1,752,724	2,492,759	
合計	3,742,383	4,733,109	
支出の部			
科目	2005年度	2006年度	備考
事業費	850,000	1,465,000	
年報発行	150,000	150,000	
年会補助金	700,000	1,000,000	(班会議と別日程のため)
顧問弁護士費用	0	315,000	
その他	0	0	
評議員費	160,000	110,000	
旅費・会議費	150,000	100,000	
その他	10,000	10,000	
業務委託費	500,000	603,750	(注)
一般事務費	280,000	280,000	
印刷費	40,000	20,000	
通信費	180,000	150,000	
庶務事務費	30,000	30,000	
雑費	30,000	80,000	
予備費	100,000	50,000	
支出小計	1,890,000	2,508,750	
次年度繰越金	1,852,383	2,224,359	
合計	3,742,383	4,733,109	

(注) クバプロの業務委託費について

会員数 600名未満：年間50万円
600～800名：年間65万円

本年度は、後期で600名を超える見込み
25万円(前期)+32.5万円(後期)+消費税

第9回 RNA ミーティング (第9回日本 RNA 学会年会) の 準備状況について

第9回 RNA ミーティングを2007年7月28日(土)から31日(火)の予定で、名古屋国際会議場白鳥ホールにて開催致します。準備委員一同、昨年同様に活気あふれる年会開催を目指していますので、どうぞ、ふるってご参加くださるようお願い致します。

【大会日程】

第9回 RNA ミーティング (第9回日本 RNA 学会年会・RNA2007)

会期： 2007年7月28日(土)～31日(火) 4日間

会場： 名古屋国際会議場 白鳥ホール(<http://www.ncvb.or.jp/ncc/>)

名古屋市熱田区熱田西町1番1号

懇親会会場： 名古屋国際会議場 レセプションホール

世話人： 名古屋大学大学院理学研究科 饗場弘二

日本 RNA 学会ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/rnaj/>

(RNA2007 公式ホームページは平成19年4月初旬に公開予定)

(集会幹事：饗場弘二)

日本RNA学会 会報

第15号 (2007年1月)

発行・制作：日本RNA学会 編集幹事

連絡先：九州大学

大学院工学研究院 井川 善也

〒819-0395 福岡市西区元岡744

電話：092-802-2866 (直通)

FAX：092-802-2865

E-mail：yikawa@cstf.kyushu-u.ac.jp